

# ほっと石川

1996  
新春号  
第2号

県民と県政のネットワーク誌

## ●新春対談

俳優  
辰巳 琢郎さん

石川県知事  
谷本 正憲

## ●県政ウォッチング

女性リポーターが行く  
県生活科学センター

## ●エトランゼの石川

アネモネ・ブラッツさん  
宇ノ気町国際交流員

## ●知事の窓

## ●エッセイ

劇団「無名塾」主宰  
仲代 達矢さん

## ●施設ガイド

県立航空プラザ

## ●クイズみんなで

チャレンジ

## ●ほくも知事

わたしも知事

## ●インフォメーション



## 「加賀万歳」

正月に舞い、厄除けと幸福を願う芸能。  
掛け合い万歳では、金沢弁を取り入れて  
ユーモアたっぷりに舞われる。



# 特集

## 新春対談

石川県知事  
谷本 正憲  
俳優  
辰巳 琢郎さん

日本はいま、高齢化社会の進行や産業構造の変革など、大きな転換期に差しかかっています。これと並行して、高度情報化の波は国境を超えて私たちの生活にまで及んできています。新たな時代をにらんだ県政の方向性と21世紀の石川県像はどうあるべきなのでしょう。谷本正憲知事と、ご両親が石川県出身でゆかりの深い俳優辰巳琢郎さんが対談しました。



**日本のふるさとづくり  
ほっとする温かさ実感**  
谷本知事  
辰巳さん

谷本 石川県にちなんだ思い出から聞かせてください。

辰巳 実は、私が水泳を覚えたのは小松市の安宅の浜なんです。幼いころ、夏休みになると母の実家がある小松へ来て過ごしていました。

谷本 子供のころの印象が、今も鮮明に残っていらつしやる。石川県にはご親戚も多いのですか。

辰巳 はい。それを抜きにしても石川県には、何かほっとするような温かさ、お金では買えないこまやかな人情を感じます。ぼくにあって、石川県は心のふるさとですね。最近、なかなか来る機会がなくて残念です。

谷本 確かに、石川県には豊かな自然や歴史も息づいています。私は、石川県を日本のふるさととして、全国に、そして、世界に発信していきたいと考えています。

辰巳 日本のふるさとというのは、住む人にとってですか。それとも県外から訪れる人にとってですか。

谷本 両方です。そこに住む人がやすらぎや感動を覚えるところは、仕事であれ、観光であれ、勉強であれ、

他県から来た人にも心地がいいはず。まず、大切なのは、安心して心豊かに生活できる環境づくりです。

**新規創業で活力を  
挑戦の姿勢が大切**  
谷本知事  
辰巳さん

辰巳 いまとても厳しい経済情勢が続いています。就職もままならない状況ですが、産業の活力を取り戻すことも、安心して暮らすための条件ですね。

谷本 その通りです。既存の産業の振興と高度化はもちろんです。石川県には高度なデザイン力、技術力を持った地場産業の集積があります。蓄積されたこのノウハウを生かしたユニークな業種、業態の創業を積極的に支援し、経済に活力を吹き込んでいきたい。

辰巳 新しいものに挑戦していく過程で、きつとビジネスチャンスも膨らんでくるでしょう。ところで、石川県は観光に力を入れていると聞いています。

谷本 産業としての観光の重要性は言うまでもありませんが、それがすべてではありません。人々の交流が増えることによって、いろんな情報

## 石川らしさは 文化を基点 生活重視で 安心の暮らし



がどんどん入ってきます。そこには必ず刺激が生まれ、町おこしの核となる人材の活性化につながります。

辰巳 そうなればおのずと石川県からの情報発信量も増え、石川の存在感と魅力が一段と増しますよね。

谷本 おっしゃる通りで、そこが真の狙いです。いま、存在感という言葉が出てきましたが、辰巳さんからご覧になって存在感があり、最も印象に残っている海外の都市はどこですか。

辰巳 イタリアのフィレンツェです。町の規模が大き過ぎず、建物の雰囲気もいい。有名な工芸品もあります。石川県には、九谷焼や輪島塗などの伝統工芸がありますし、どこか共通点が多いですね。

谷本 伝統に裏打ちされた文化の厚みが人を引きつけるのではないのでしょうか。それは、歴史や民族、宗教などが違っても、きつと同じなんだらうと思います。

**文化振興は経済も活性  
新しい血が伝統を刺激**  
谷本知事  
辰巳さん

辰巳 二十一世紀は個性の時代と言われ、県づくりに個性が求められてくると思います。知事は何をテーマに石川らしさをアピールしていくとお考えですか。

谷本 やはり文化です。石川県には古くから生活に密着した芸能や工芸が息づいています。同時に、オーケストラやサンプリング金沢をはじめ新しい芽もたくさん出てきています。これら新旧の文化に磨きをかけていきたい。

辰巳 新しい文化の血によって伝統文化も刺激を受けますし、互いに切磋琢磨することで進歩や別の新たな文化が誕生するような気がします。

谷本 文化は消費の面からとらえられがちですが、多くの県民がかかわることで、それに関連した産業も成り立っている面を忘れてはいけません。文化振興は地域経済の高度化にもつながるんです。

辰巳 知事は「これからは地球時代だ」と表現されていますが、海外との特色ある交流も欠かせない視点ですね。

谷本 ええ、国際交流に加えて、国際協力も不可欠な要素になってくると思います。例えば、途上国から来た研修生や留学生が、石川県の持っている学術や技術を学び、母国の発展に役立ててもらえれば素晴らしい。

辰巳 本当に実のある国際交流ですよ。帰国した後、彼らは石川の発

信路としても、活躍してくれそうです。谷本 民間大使そのものです。日本の良さ、石川県の良さをPRするため、国際交流の拠点となる施設をこの一〇月に開設する計画です。

**思いやる心が個の尊厳に  
弱者に優しい社会の実現**  
谷本知事  
辰巳さん

辰巳 産業と文化の振興、国際交流の拡大とも一体となって、知事が目指される、日本のふるさとづくりの基礎というのは、やはり安心の暮らしですか。

谷本 そうです。災害に強い県土づくりを土台に、石川県の実情に応じたきめ細かな福祉、保健、医療サービスの提供や女性の社会進出支援、環境保全など、生活重視の姿勢で取り組んでいきます。

辰巳 お年寄りや障害者にも優しい社会の実現が望まれますよね。日本は世界の先進国に比べてまだまだ遅れています。

谷本 社会的弱者に手を差し伸べるのが、行政の原点であることをかみしめています。思いやりの心から個の尊厳も生まれます。次代を担う青少年に、このことの大切さを伝えていきたいと思っています。

辰巳琢郎さん  
俳優

昭和33年生まれ。大阪市出身。父親は加賀市、母親は小松市の出身。京都大学文学部を卒業と同時に、NHKの朝の連続テレビ小説「ロマンス」でデビュー。テレビ、舞台、映画などで幅広く活躍、平成5年の百万石まつりパレードでは、前田利家公を務めました。







大西館長からセンターの仕事について説明していただきました

## 賢い消費者をアシスト PL法施行で増える相談

PL法（製造物責任法）が平成七年七月から施行され、商品の安全性や消費生活に対する国民の関心と意識が高まっています。賢い消費者になるには、また、トラブルにあった時の解決はどうしたらよいでしょうか。PL法の勉強を兼ねて、金沢市広坂二丁目にある県生活科学センターを訪ね、センターの業務や取り組みなどを聞きました。

●分りやすいアドバイス  
県生活科学センターは七年二月、金沢市三社の県女性センターから現在の県庁南分室に移転しました。一階に消費、生活情報を集めた図書、ビデオライブラリーのコーナー、相談室や商品テスト室、事務室、二階は研修室や消費者実験実習室などがあります。

館内を案内していただいた大西節子館長に、早速、PL法を分りやすく説明してもらいました。大西館長によると、これまで製品の欠陥が原因でけがをしたり、家や財産に損害が生じた場合、被害者である消費者が製造業者の過失を証明し、民法に基づく損害賠償請求を行ってきました。しかし、過失の立証は極めて困難で、消費者は弱い立場でした。

これに対して、PL法は被害者保護の観点から、製造業者の過失に関係なく、「通常使用で被害発生した」という製品の欠陥を証明す

## 県政 ウォッチング Watching 女性リポーターが行く

ればよく、損害賠償請求時の負担が大幅に軽くなったとのこと。

PL法に対する県民の意識は高く、その一端は相談件数にも表れているようです。七年度上半期（四月～九月）の相談件数は一、七四七件で、前年同期より一〇二件増加しています。問い合わせの内容は、「ボディボード（海の遊具）の紐で手を切ったが損害賠償請求はできるか」「形状安定ワイシャツを買ったが品質に問題がある。PL法の対象とならないか」などさまざまです。

センターでは、相談の内容やケースに応じて、消費生活相談専門員が適切なアドバイスを行っています。大西館長は「万一、被害にあった場合は、現場の状況をビデオや写真などに記録し、その製品を証拠として保管することが大切だ」と話し、これはおかしなと思ったら気軽にセンターまで相談してほしいとのことでした。

ただ、PL法の対象となるのは、法律が施行された七年七月一日以降に製造業者から出荷された製品で、不

動産や未加工の農林畜産物、理容・美容などのサービスは対象外だそうです。

### ●商品テストやセミナーも

センターでは、消費者相談のほか、苦情が寄せられた商品の品質や安全性に関する検査も行っています。テストの結果、商品に問題があった場合は、製造業者を呼んで注意したり、センター発行の広報誌にメーカー名や商品名を掲載し、注意を呼び掛ける措置を取っています。フルーツ風味のアルコール飲料が未成年者に誤飲されやすい問題を、消費者グループと共同で取り組むなど、グループの活動も支援しているそうです。

「災害と損保の掛け方」といった消費生活の話題や問題をタイムリーに取り上げたセミナーも人気です。婦人会や老人会などの研修会に呼ばれて講師を派遣する「出前講座」も実施しており、その回数は年間約五〇回にも上るとか。

多種多量の製品があふれる中、安全で楽しい生活を送るためには、私たち消費者も知識と選択の目を養わなければなりません。県生活科学センターの積極的な活用が、その心強い味方になってくれると思います。



実際に商品テストに参加してみました

●リポーター  
金沢市泉野町  
高見 邦子さん  
神戸市出身。昭和52年、関西大学文学部を卒業。主婦。夫の転勤で平成7年4月に静岡から金沢に転居。趣味は料理コンクールへの応募。



県民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。「ほっと石川」第二号をお届けしました。昨年夏に創刊号を発売させていただきましたが、予想以上の反響があったことを、大変うれしく思っています。ありがとうございます。

お便りは、県政の施策に対する注文あり、この広報誌へのご意見ありと、私自身、大いに参考になるものばかりでした。どれも、わ



## 連携でハーモニーを

が町、わがふるさとをよくしたい、そんな熱い思いが伝わってきました。ここでそのすべてを紹介できないのは残念ですが、まず、ご指摘の多かった防災対策を取り上げたいと思います。

早いもので、あの阪神淡路大震災からやがて一年がたちます。県では大震災を教訓に、隣県との間で救難・救助を相互に行う広域防災体制を確立し、防災訓練の強化

にも努め、万全を期しています。しかし、災害は時に人智を超えて襲ってきます。行政だけでは手の回らないケースがきつと出てくるでしょう。阪神淡路大震災では多数の民間ボランティアが活躍しました。困った時はお互いさまの精神です。ぜひ皆さまの力をお貸し下さい。

それと、もう一つ。今回の「ほっと知事、私も知事」のコーナーで村井秀美さん、森下賢一君にも提言をいただいた環境保全です。前号でも、南史代さんが下水道の必要性を書いてくれました。

私も全く同感です。地球は私たちの子孫からの大切な預かり物です。「自分さえ良ければ」の発想は悲しいですね。県では、下水道、廃棄物処理施設などの整備や自然保護を、さらに進めていく考えています。同時に、ゴミ減量化やリサイクルなどで、皆さまのご協力がなければ効果が上がらないのも事実です。

「共鳴」という言葉があります。行政と住民の連携と信頼が、美しいハーモニーを生み出します。これからも県政に対して大きな声をお寄せ下さい。

（谷本正憲）

## エドランゼの石川 Anemone Platz

宇ノ気町国際交流員  
アネモネ・プラッツさん

### ◆特別扱いは逆効果

国際交流というものは、誰でも参加できなければ意味がないと思います。壇上から一方通行的に話しをし、相手はそれを黙って聞くだけというのは駄目です。垣根の低い日常のお付き合いが大切です。

七年九月一五日、町で国際野外祭りを開きました。宇ノ気町在住の外国人がホストになって、町民の皆さんと一緒に母国の料理やゲームを楽しみました。ごく簡単な趣向や内容ですが、それだけに、飾らないふだん着の交流ができたと思っています。

同じく五月に宇ノ気町の姉妹都市であるドイツのメスキルヒ市から四名を招いた際には、町内の一般家庭にホームステイをお願いしました。ちょうど町民運動会があり、メンバーにも受け入れ家庭の一員として参加してもらいました。参加者のみんなから「楽しかった」という声を聞いた時はとてもうれしかったです。

私もそうですが、外国を訪れると

## ふだん着の交流で通じ心

きは「お客さん」という特別扱いをされたくないんです。だから、私は同じ町民の一人として、婦人会のリサイクル活動や保育園、小学校のイベントなどに参加します。地域の皆さんと触れ合うのが好きです。そして、大切なことだと思います。



### ◆考えたい平等の意味

日本では「男女平等」といいますが、すぐ「女性だから」「男性だから」と、無意識のうちに差別をしていますが、私の母国のドイツでは、男女の性別はもちろん、年齢や国籍によって、偏見を持たれることはありません。

まず考えなければならぬのは平等の意味です。相手が何を考え、望んでいるのかを知り、思いやる心が平等をつくる基本だと思います。イメージや固定観念の枠を外し、もっと自然に接するべきです。そして積極的にコミュニケーションを取れば、お互いの関係はもっと良くなっていくはずです。

国際交流に難しい考えはいりません。必要なのは、積極的な気持ちです。

けです。新しいものに触れたい、学びたいという好奇心と、それから、自分の気持ちを素直に伝え、お互いに理解するまで努力を続ける。そんな気持ちがあれば、国際交流という表現が不必要となり、人間と人間の交流になります。

### ●プロフィール

ドイツ・フライブルグ市出身。フライブルグ大学、北海道大学、ウイン大学で日本学、社会学などを学ぶ。平成五年七月から宇ノ気町国際交流員。姉妹都市交流の助言・企画、ドイツ海外セミナーや外国語教室で指導に当たっている。



子供たちとの触れ合いが何よりも好き  
＝宇ノ気町内日角保育所



# Essay 石川への思いを託して

俳優 仲代達矢さん

豊かさとともに消えた生活臭さ。  
住む人の素顔、息づかいが、  
個性を育て、感動を生む。



■プロフィール

昭和7年、東京生まれ。舞台では「ハムレット」「オセロ」「リチャードⅢ」など、映画では「人間の条件」「切腹」「用心棒」「天国と地獄」「影武者」「乱」など多数の巨匠監督作品に主演。50年から無名塾主宰。平成4年仏シユバリエ芸術文化勲章、5年紀國屋演劇賞を受けるなど、日本を代表する俳優として国際的にも活躍中。平成8年、NHK大河ドラマ「秀吉」に出演。

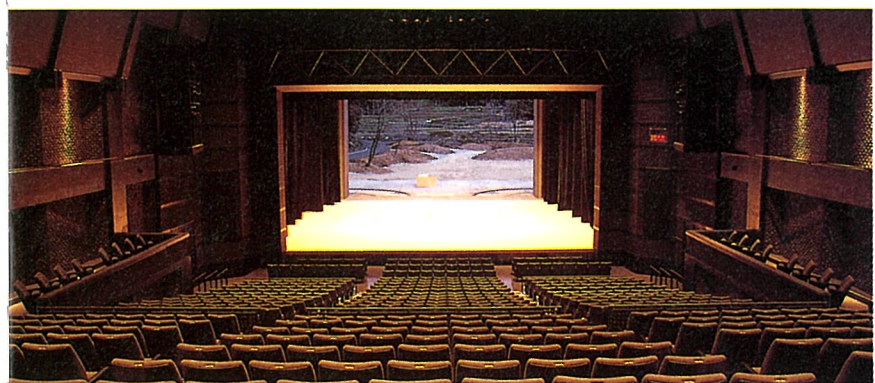
中で、素朴な人情や素暗らしい風土にすっかり魅せられた。篝火保存会の方々から指導を受けた「能登中島太鼓」は、今では仲間結婚式などで団員の十八番になっている。話は変わるが、演劇をやっている、いつもながら思うのは、本物の芝居を見せる劇場がないということだ。確かに、全国には豪華で巨大な劇場が雨後のタケノコのようにできている。だけど、それらの大部分は、講演会も、音楽会も、われわれの芝居もという、多目的ホールだ。多目的ホールなら国から有利な財源も得られるらしい。悪いことには、隣の町が立派なホールを造ったら、わが町はそれより一席でもいいから大きなものをという風潮まではびこっている。

その意味で、能登演劇堂の建設には町側の大変な決断があったことと思う。われわれ役者側の注文にも随分と耳を傾けていただいた。舞台面積を優先した結果、客席数は六五一席に抑えられた。しかも、舞台の後方を開き、自然を借景できるといふ、夢のような劇場である。

お世辞抜きに、日本一、いや世界一の劇場と呼んでいい。今度は、ぼくたちが試される番だと思っっている。建物に恥じない質の高い芝居を

平成七年、石川県中島町に演劇専用ホールである「能登演劇堂」がオープンしました。きっかけとなったのは、俳優の仲代達矢さんが主宰する無名塾が、一〇年前から同町で続けている稽古合宿でした。能登の風土を愛し、町民との交流を深め、「能登は第二のふるさとです」と言い切る仲代さんが、石川県民への熱い思いを寄せてくれました。

「こんな所で芝居の稽古ができたらしいなあ。ポツリつぶやいたことが、いつの間にか町議会で取り上げられ、無名塾の合宿の発端となった。団員の間に戸惑いがなかったと言えはうそになるだろう。しかし、昭和六〇年夏以来、毎年お世話になる



舞台後方が開き、観客席から大自然が見える能登演劇堂—石川県中島町 (写真提供：北國新聞社)

## 施設ガイド

### 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 毎週月曜日  
(祝日にあたる場合は翌日休館)  
入館料 無料  
(一部のシミュレーション装置は有料)  
駐車場 約100台収容  
小松市安宅新町丙92番地  
(小松空港前)  
TEL 0761-23-4811

## 石川県立航空プラザ

### 案内役

羽咋市の場町  
南部 晃一さん (会社員)  
千鶴子さん (主婦)  
一気ちゃん (5歳)  
円香ちゃん (3歳)



係員(右奥)の説明を受けながら飛行機の歴史を映し出します



色鮮やかな「ピラタス」に見入る南部さんご一家

見る・触れる・体験する  
本物の飛行機に会いに行こう！

平成七年十一月、小松空港前に航空プラザがオープンしました。ここは、北陸三県で唯一、本物の飛行機やヘリコプターなどを展示した航空博物館です。今日は、羽咋市にお住まいの南部さんご一家に案内役を務めていただきました。

一階展示室は、一、一七六平方メートルの広さがあり、ビーチクラフトE-33練習機や戦闘機など、実物の飛行機計七機を一般公開しています。目を引く鮮やかな赤色の機体は「ピラタスPC-16南極観測用軽飛行機」です。全長十一メートル、翼の端から端までが約十六メートルあり、千鶴子さんは「これに乗って白一色の南極を飛べたらさつとすてきな」とにっこり。

### 映像で学ぶ飛行機の歴史

二階は、飛行機の歴史や発展の歩みが一目で分かる展示コーナーとなっています。階段を上がった一気ちゃんと円香ちゃんの前に現れたのは、二宮忠八が明治二六年に製作した日本初の人力飛行機「玉虫型人力飛行機」の復元モデルです。「自転車みたいなペダルがあるよ」と、円香ちゃんは楽しそうに、晃一さんに語りかけます。

コーナーの一角には、模型を使って飛行の原理や翼の動きを実験できる装置や、世界各国の戦闘機、大空に夢を馳せた先人のドラマを映し出すモニターが置かれています。

また、飛行機の操縦を疑似体験できるフライトシミュレーションゲームも人気を集めています。「これだけあれば、大人から子供まで楽しめるね」と、南部さんご一家もにっこりした様子で帰路につかれました。



## クイズ みんなでチャレンジ

正解者の中から抽選で50名の方に、石川県立航空プラザのテレホンカードをお贈りします。ふるって応募ください。

Q1 航空プラザがオープンしたのはいつでしょうか？

- ①平成七年四月
- ②平成七年十月
- ③平成八年一月

Q2 航空プラザで公開している南極観測用軽飛行機の名前は？

- ①ムスタング
- ②ピラタスPC-16
- ③スターファイター

Q3 日本で初めて人力飛行機を製作した人物は？

- ①平賀源内
- ②大野弁吉
- ③二宮忠八

はがきに、クイズの解答と住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ

〒920-800 (住所不要)

石川県広報室

「はつと石川」係まで

お送り下さい。

締め切りは

平成八年

2月末日。





# ぼくも知事 わたしも知事

## 「環境保護をみんなの力で」

加賀市庄小学校 6年  
村井 秀美さん

私は昨年の子供議会で議長を務めさせてもらいました。その中でいろいろな問題やお願いを聞きました。私が日常気づいていなかった重要な問題も数多く出され、石川県にも解決していかなければならない問題がたくさんあるものだなあと感じました。

私が一番気になったことは、人間はもちろんですが、動物や虫たちも住み良い環境で生きているかということなんです。今、山の木を切つてゴルフ場にしたり、川に排水やごみを捨てたりして、地球をいじめているのではないのでしょうか。

私の家の近くでも、山はゴルフ場に



変わりがつあります。何年か前はきれいな緑の生い茂った山だったのと思っています。その山の動物たちはどうなったのでしょうか。

魚を養殖したり、動物を保護したりすることは少しずつされていますが、まだまだ数は少ないのではと思います。もっと増やさなければならぬのではと思います。

もし、私が知事だったら、もっとたくさん木を植えた環境にも私たちにも住みやすい環境にするにはどうしたら良いか考えていきたいと思っています。また、みんながどのようにしたらうまくいくか考え、みんなで行いたいと思います。

## 「自然と開発の調和が大切」

金沢市浅野川中学校 2年  
森下 賢一くん

ぼくの町は、今もビル建設、パチンコ店建設と、どんどん工事が進んでいる発展都市のようなものです。しかし、その裏には、ぼくたちの怒りがあります。

例えばビル工事にして、そこはつい昨日までは、ぼくらと町全体の広場があって、毎日のように遊びに行っていた場所です。

ところが、次の日に行ってみると大きなビルの建設が始まっていて「危険！ 立入禁止」の看板がかけられています。

このように、ぼくたちのものではないけれど、子供だからと何の予告もなしに



く行われ、ゆとりの場所を失うのが現状です。

公園という形でなくても、身近なところにそういう場所があれば、ぼくらにすれば、テレビゲームなどで家にこもってしまふよりも、のびのびと運動できます。大人にとっても休みの日に家でゴロゴロしているよりも、こんな場所に行つて体を伸ばした方がゆとりが持てていい休日になると思います。

だから、ぼくが知事になったら、緑のあるゆとりの公園を、子供の目線、立場に立つてもっとたくさん作り、豊かな自然を石川県全体に残していきたいと思えます。

## INFORMATION

インフォメーション

### ぼくと石川冬紀行

いしかわの味めぐり・技めぐり

### 雪の金澤体験紀行

2月1日〜29日

金沢市内のオリジナル行灯が表示してあるお店や工房で、趣向を凝らしたおもてなしをご用意しています。



### 雪と街のハローモニ'96

2月9日、10日、16日、17日、23日、24日

県立能楽堂などでクラシックやジャズ、古楽器演奏、落語など、文化の薫り高いステージをお楽しみください。

### お問い合わせは

県観光推進総室まで

☎0762(23)9204

### フードピア金沢'96

2月9、10日

金沢市内18会場

県内各地9会場

### 兼六園「雪見の宴」

2月10日

兼六園周辺茶店

### フードピアランド

2月11、12日

県中央公園(金沢市)

### お問い合わせは

フードピア金沢開催委員会

まで

☎0762(32)1000



## ぼくと石川・参加者募集

県民参加型の広報誌を目指す「ぼくと石川」では、「県政ウォッチング」に登場していただく女性リポーター、「施設ガイド」で県営施設の案内役をお願いする家族を募集しています。また、小学校高学年から中学校三年生までの児童・生徒を対象にした「ぼくも知事、わたしも知事」の作文(六〇〇字程度)も募集しています。

お問い合わせ、申し込みは、

〒920180 (住所不要)

石川県広報室 「ぼくと石川」係

☎0762(23)9106

はがきの場合は、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。「ぼくも知事、わたしも知事」の作文は、学校名や保護者名も明記して送付して下さい。



県広報誌「ぼくと石川」についてのご意見・ご感想、県政に対するご提案・ご相談などを、「前略谷本知事」係まで、はがきか封書でお寄せ下さい。住所・氏名・年齢・職業・電話番号も必ず明記して下さい。

〒920180 (住所不要)

石川県広報室「前略谷本知事」係

### 編集後記

旧盆明けから企画を重ねた新春号は、皆さまから寄せられた数多くの貴重なご意見を参考にさせていただきました。ご意見の中に、本誌のタイトル名について問い合わせがありました。ご説明いたします。「ぼくと石川」の名前は県の観光のキャッチフレーズから取ったもので、

- 石川の活力と熱い気持ち
- 温泉のあたたかさ
- 温もりのある出会いともてなしの心

「ぼくと石川」の石川を表しています。表紙のロゴと四つの円をあしらったコミュニケーションマークは、観光キャッチフレーズ募集に合わせて決定しました。県民の皆さまもご活用ほどよろしく願っています。